

令和6年度 第2回丹波市多文化共生推進懇話会（摘録）

日 時：令和6年7月17日（水）午後1時00分開会～午後2時30分閉会

場 所：氷上住民センター 実習室

出席者委員：渋谷節子会長、十倉直子副会長、芦田恒男委員、古川正孝委員、足立喜信委員、岩澤

宏一委員、石田スエリ委員、中川フェテレウォルク委員、BUI THI THU HUYEN委員、

池田和代委員、坂谷秀則委員

欠席者委員：なし

事務局：谷水まちづくり部長、堂本人権啓発センター所長、梅津人権推進係長、神澤主事

報告事項：（1）第1回丹波市多文化共生推進懇話会 意見交換まとめについて

（2）子どもを対象とした多文化共生に関するアンケート調査結果について

議題：丹波市多文化共生推進基本方針の記載案について

資料：

- ・第1回丹波市多文化共生推進懇話会 意見交換まとめについて【資料1】
- ・子どもを対象とした多文化共生に関するアンケート調査結果について【資料2】
- ・テキストマイニング結果【資料3】
- ・丹波市多文化共生推進基本方針（案）【資料4、資料4-1】

1 開会

2 あいさつ

会長

暑い中お集まりいただき感謝申し上げます。本日は、前回の懇話会でグループに分かれて委員

の皆さんからいただいた貴重な意見についての結果報告や、丹波市多文化共生推進基本方針

の策定に向けての意見をいただけたらと思うのでよろしくお願ひ申し上げる。

### 3 会議の公開・非公開について

審議にあたっては、特段個人情報<sup>とくだんこじんじょうほう</sup>が特定<sup>とくてい</sup>されることはないため、公開<sup>こうかい</sup>とする。なお、議論<sup>ぎろん</sup>を進めていく中で個人<sup>なか こじん</sup>が特定<sup>とくてい</sup>されるような内容<sup>ないよう</sup>となった場合には、非公開<sup>ひこうかい</sup>とする旨<sup>むね</sup>を確認<sup>かくにん</sup>する。

### 4 報告事項

(1) 第1回丹波市多文化共生推進懇話会<sup>だいい かいたんばしたぶんかきょうせいすいしんこんわかい</sup> 意見交換<sup>いけんこうかん</sup>まとめについて

(2) 子どもを対象とした多文化共生に関するアンケート調査結果<sup>ちようさけっか</sup>について

事務局<sup>じむきよく</sup>より【資料1】<sup>しりよう</sup>、【資料2～3】<sup>しりよう</sup>に基づき説明<sup>もとせつめい</sup>

#### 【意見要旨】

##### 委員

なぜ子どもを対象<sup>たいしよう</sup>にアンケート<sup>おこな</sup>を行ったのか。また、いくつかチャットGPTによる回答<sup>かいとう</sup>のよう<sup>みう</sup>なところが見受けられるが。

##### 事務局

なぜ子どもを対象<sup>たいしよう</sup>にアンケート<sup>おこな</sup>を行ったのかというところでは、多文化共生<sup>たぶんかきょうせい</sup>というテーマでなかなか子どもや若者<sup>わかもの</sup>の意見<sup>いけん</sup>を聞ける機会<sup>きかい</sup>がなかったことから、この分野<sup>ぶんや</sup>に対してどのよう<sup>たい</sup>に思っているのかを聞きたく、学校<sup>がっこう</sup>を通じ、実施<sup>じっし</sup>した。アンケート形式<sup>けいしき</sup>ではあるが、3問<sup>もん</sup>のうち2問は自由記述<sup>じゆうきじゆつ</sup>とし、そこでしっかりと意見<sup>いけん</sup>をいただくことができた。その中で、ご意見<sup>ごいけん</sup>いただ

いたように機械的な回答が並んでいるとよくわかるが、現在チャットGPTなどのツールを使い学習をされていること、ひいてはそのような形で内容を理解することが増えてきていることを率直に感じているところである。また、余談ではあるが、市の方針を決めていく中で、行政としてもこどもの意見を聞くということを大切にしているためアンケートを行ったところである。

いいん  
委員

こどもの外国人市民は何人おられるのか。

じむきよく  
事務局

高校生は把握していないが、小・中学生であれば各校1名程度在籍しておられる。ただ、外国籍での児童・生徒ということになるので、日本国籍でも外国にルーツがあるような子どもたちを含めるともう少しおられるかと思う。

かいちょう  
会長

質問とは少し違うが、アンケート結果にあるイベントについて、具体的に書かれているところもあるが、子どもたちはどのようなイベントをイメージしているのか。交流を深めるためにはどのようなイベントをすればよいのか気になるところである。

いいん  
委員

今後、市民や事業所にアンケートは取らないのか。これでは不十分な気がしている。

じむきよく  
事務局

さくねんど じぎょうしょ しみん がいこくじんしみん じっし  
昨年度に事業所アンケートや市民アンケート、外国人市民アンケートなどを実施しており、そ  
けっか ぜんかい こんわかい ほうこく ついか  
の結果については前回の懇話会で報告したところである。そこへこどもへのアンケートを追加  
と なが  
して取らせていただいたという流れになっている。

いいん  
委員

わたし がっこう ざいせき がいこくじん せいと そ ふ にんちしょう わずら かた ろうじん  
私の学校に在籍しているひとりの外国人の生徒の祖父が認知症を患っており、その方が老人  
にほんじん かた おな にゆうしょ き にほんご  
ホームやデイサービスに日本人の方と同じように入所することができるのか気になる。日本語  
いっさいはな そうだん わ  
が一切話せないののでどうなるのか、また、どこに相談すればよいのかということも分からない。

じむきょく  
事務局

にほんじん がいこくじん かんけい せいど りよう しせつ りよう かのう  
日本人、外国人と関係なく制度が利用できるのであれば、施設やサービスの利用は可能である  
おも う せつめい ほんとう う  
と思うが、サービスを受けるにあたっての説明や、本当にそのサービスを受けることができる  
しかく こべつ かくぶしょ かくにん ひつよう こま  
資格があるのかというところは、個別で各部署に確認することが必要である。また困りごとにつ  
いて市に相談があれば、担当課へ繋ぐことは可能である。

いいん  
委員

きほんてき じむきょく しない かた ひつよう かいご う  
基本的には事務局からあったように、市内の方であれば必要な介護サービスを受けることはで  
きるが、いちばん もんだい にほんご かいわ おも かた  
一番の問題は日本語での会話ができないというところだと思う。その方にとってどのよ  
うなサービスが必要であるのかを判定し、そこからどのサービスの提供ができるのかというこ  
と、そして日本語でのコミュニケーションが取れないことをどうカバーするのか。いずれにして  
ちいきほうかつしえん そうだん み あ  
も、地域包括支援センターというところがあるので、まずはそこに相談していただき、見合った

サービスの提供を考<sup>ていぎょう</sup>え<sup>かんが</sup>ることになる。訪問でも地<sup>ほうもん</sup>域<sup>ちいき</sup>包<sup>ほう</sup>括<sup>かく</sup>支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>セ<sup>せ</sup>ン<sup>ん</sup>ター<sup>た</sup>側<sup>がわ</sup>から来<sup>き</sup>て<sup>き</sup>た<sup>き</sup>だ<sup>き</sup>く<sup>き</sup>こと  
も可<sup>かのう</sup>能<sup>な</sup>である。困<sup>こま</sup>り<sup>な</sup>ごと<sup>な</sup>や悩<sup>なや</sup>み<sup>な</sup>につ<sup>そ</sup>い<sup>だん</sup>て<sup>だん</sup>相<sup>さう</sup>談<sup>だん</sup>さ<sup>さ</sup>れ<sup>れ</sup>ると<sup>と</sup>よ<sup>よ</sup>い。

副<sup>ふく</sup>会<sup>かい</sup>長<sup>ちやう</sup>

私<sup>わたし</sup>が<sup>おも</sup>思<sup>い</sup>う<sup>じやう</sup>以<sup>い</sup>上<sup>じやう</sup>に<sup>じ</sup>こ<sup>こ</sup>も<sup>も</sup>た<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>が<sup>が</sup>多<sup>た</sup>文<sup>ぶん</sup>化<sup>か</sup>共<sup>き</sup>生<sup>せい</sup>につ<sup>き</sup>いて<sup>い</sup>気<sup>き</sup>に<sup>に</sup>か<sup>か</sup>け<sup>け</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>が<sup>が</sup>ア<sup>あ</sup>ン<sup>ん</sup>ケ<sup>け</sup>ー<sup>え</sup>ト<sup>と</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>  
か<sup>か</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>。自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>た<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>積<sup>せ</sup>極<sup>きよく</sup>的<sup>てき</sup>に<sup>り</sup>理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>し<sup>し</sup>た<sup>た</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>気<sup>き</sup>持<sup>も</sup>ち<sup>ち</sup>が<sup>が</sup>表<sup>あら</sup>わ<sup>わ</sup>れ<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>に<sup>に</sup>お<sup>おも</sup>う<sup>う</sup>。そ<sup>そ</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>、  
外<sup>がい</sup>国<sup>こく</sup>語<sup>ご</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>え<sup>え</sup>ば<sup>ば</sup>英<sup>えい</sup>語<sup>ご</sup>だ<sup>だ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>イ<sup>い</sup>メ<sup>も</sup>ー<sup>お</sup>ジ<sup>お</sup>を<sup>を</sup>持<sup>も</sup>つ<sup>つ</sup>こ<sup>こ</sup>も<sup>も</sup>が<sup>が</sup>多<sup>お</sup>い<sup>い</sup>が<sup>が</sup>、他<sup>ほか</sup>の<sup>ほ</sup>母<sup>ぼ</sup>語<sup>ご</sup>を<sup>を</sup>持<sup>も</sup>つ<sup>つ</sup>方<sup>かた</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>で<sup>で</sup>、そ  
の<sup>けい</sup>啓<sup>ひつ</sup>発<sup>よう</sup>も<sup>おも</sup>必<sup>ひつ</sup>要<sup>よう</sup>だ<sup>だ</sup>と<sup>と</sup>お<sup>おも</sup>う<sup>う</sup>。

委<sup>い</sup>員<sup>いん</sup>

このアンケートは自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>た<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>で<sup>で</sup>考<sup>かん</sup>え<sup>え</sup>る<sup>る</sup>よ<sup>よ</sup>い<sup>い</sup>機<sup>き</sup>会<sup>かい</sup>に<sup>に</sup>な<sup>な</sup>り<sup>り</sup>、こ<sup>こ</sup>の<sup>き</sup>こ<sup>こ</sup>も<sup>も</sup>の<sup>き</sup>教<sup>きやう</sup>育<sup>いく</sup>に<sup>に</sup>と<sup>と</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>効<sup>こう</sup>果<sup>か</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>  
た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>お<sup>おも</sup>う<sup>う</sup>。

## 5 協<sup>きやう</sup>議<sup>ぎ</sup>事<sup>じ</sup>項<sup>こう</sup>

(1) 丹<sup>たん</sup>波<sup>ば</sup>市<sup>し</sup>多<sup>た</sup>文<sup>ぶん</sup>化<sup>か</sup>共<sup>き</sup>生<sup>せい</sup>推<sup>すい</sup>進<sup>しん</sup>基<sup>き</sup>本<sup>ほん</sup>方<sup>ほう</sup>針<sup>しん</sup>の<sup>き</sup>記<sup>き</sup>載<sup>ざい</sup>案<sup>あん</sup>につ<sup>つ</sup>いて

事<sup>じ</sup>務<sup>む</sup>局<sup>きよく</sup>よ<sup>よ</sup>り【資<sup>し</sup>料<sup>りやう</sup>4】、【資<sup>し</sup>料<sup>りやう</sup>4-1】に<sup>も</sup>と<sup>と</sup>づ<sup>づ</sup>き<sup>き</sup>説<sup>せ</sup>明<sup>めい</sup>

### 【<sup>い</sup>見<sup>けん</sup>要<sup>よう</sup>旨<sup>し</sup>】

委<sup>い</sup>員<sup>いん</sup>

外<sup>がい</sup>国<sup>こく</sup>人<sup>じん</sup>市<sup>し</sup>民<sup>みん</sup>は、外<sup>がい</sup>国<sup>こく</sup>に<sup>も</sup>ル<sup>る</sup>ー<sup>し</sup>ツ<sup>つ</sup>を<sup>を</sup>持<sup>も</sup>つ<sup>つ</sup>市<sup>し</sup>民<sup>みん</sup>と<sup>と</sup>記<sup>き</sup>載<sup>ざい</sup>さ<sup>さ</sup>れ<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>が<sup>が</sup>、外<sup>がい</sup>国<sup>こく</sup>“<sup>に</sup>も<sup>も</sup>”<sup>も</sup>ル<sup>る</sup>ー<sup>し</sup>ツ<sup>つ</sup>を<sup>を</sup>持<sup>も</sup>つ<sup>つ</sup>、の  
方<sup>ほう</sup>が<sup>が</sup>よ<sup>よ</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>お<sup>おも</sup>う<sup>う</sup>。ま<sup>ま</sup>た<sup>た</sup>、国<sup>こく</sup>籍<sup>せき</sup>法<sup>ほう</sup>に<sup>が</sup>い<sup>い</sup>こ<sup>こ</sup>く<sup>く</sup>人<sup>じん</sup>”<sup>い</sup>の<sup>い</sup>意<sup>い</sup>味<sup>み</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>す<sup>す</sup>と<sup>と</sup>、外<sup>がい</sup>国<sup>こく</sup>人<sup>じん</sup>市<sup>し</sup>民<sup>みん</sup>の<sup>な</sup>中<sup>ちゆう</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>、無<sup>む</sup>国<sup>こく</sup>籍<sup>せき</sup>  
の<sup>かた</sup>方<sup>ほう</sup>も<sup>も</sup>外<sup>がい</sup>国<sup>こく</sup>人<sup>じん</sup>と<sup>と</sup>な<sup>な</sup>り<sup>り</sup>、二<sup>に</sup>重<sup>じゆう</sup>国<sup>こく</sup>籍<sup>せき</sup>の<sup>かた</sup>方<sup>ほう</sup>は<sup>は</sup>日<sup>に</sup>本<sup>ほん</sup>人<sup>じん</sup>と<sup>と</sup>な<sup>な</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>で<sup>で</sup>、人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>字<sup>じ</sup>を<sup>を</sup>使<sup>つか</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>で<sup>で</sup>な<sup>な</sup>く<sup>く</sup>何<sup>なに</sup>か<sup>か</sup>ほ<sup>ほ</sup>か

によい言葉があればと思う。

いいん  
委員

外国“にも”、に該当しない方もいる。そういった方をどう拾うか。

かいちょう  
会長

日本にもルーツがあり、外国にもルーツがあるといったように一言では表すことができない。

広く捉えるなら、外国にも、の方がよいと思う。

外国人市民の定義については、【資料4】と【資料4-1】ではどちらの方がというところはどうか。【資料4-1】では、国籍が日本であっても外国にルーツを持つ方を含めています、と書き換えている。私個人の意見では【資料4-1】の方がよいと思う。国籍が日本であっても、という文言が入ると、国籍が日本であったとしても外国にもルーツがある場合は外国人市民である、という受け止め方をされるかもしれないところが気になる。反対意見がなければ【資料4-1】になるが、外国人市民にも、とするのかということ、また、外国人市民という言葉はどうするのかについてはどうか。

いいん  
委員

そもそも、外国、日本ではなく、様々な文化背景のある人や国籍背景のある人というように主語を変えてしまえば包括的な表現にはなるかもしれない。

かいちょう  
会長

私もそのように思うが、おそらく定義をここで示すということは、何かしらのラベル付けが

必要ひつようになってくるからである。そういった中なかで、本基本方針ほんきほんほうしんにおける外国人市民がいこくじんしみんという言葉ことばを全すべて、多様たような文化的背景ぶんかてきはけいを持つ方も、というように変かえていくかどうかの話しはなしになってくる。

副会長ふくかいちょう

日本語教室にほんごきょうしつでは、こういった括くくりは全まったく関係かんけいなく日本語が苦手にほんごにがてな方がたとしている。日本国籍にほんこくせきでありルーツも日本にほんにあるが日本語が話はなせない方かたもいる。なので、外国人市民がいこくじんしみんと一つひとに括くくるのは難むずかしいように思おもう。

会長かいちょう

先日事務局職員せんじつじむきよくしよくいんと、多文化共生たぶんかきょうせいという視してん点てんから、外国籍がいこくせきの方かたや外国がいこくにルーツを持つ方もが対かた象たいしょうになるという話しはなしをしたが、それをどこまで広ひろげるのか。定義ていぎのところの外国人市民がいこくじんしみん、外国がいこくにルーツを持つ市民も、のあとにもう一つひと入れるかというところであるが、例たとえば、多様たような文化的背景ぶんかてきはけいを持つ方もを入れるなど。ただ、そうすることで少すこし曖昧あいまいになってしまうので難むずかしい。多様たような文化的背景ぶんかてきと言いはれると想そう起きされる対たい象しょうが広ひろくなり、誰だれでもそうになってしまう。

事務局じむきよく

行政ぎょうせいとして表ひょう記きするにあたり全すべてを網羅もうらする修飾語しゅうしょくごを考かんがえたが、排他はいたてき的でなくわかりやすいという面めんも考かんがえなければならないという中なかで、差別さべつてき的てきにならないかなど配慮はいりよしながら最大限さいだいげん取り入れたが、委員いいんの皆みなさんの中なかでも様々さまざまな思おもいがあったり、シチュエーションにもよること、そして言葉ことばに対して持つ印たい象しょうも様々さまざまかと思おもうが、どこまで表ひょう現げんしていくのか広ひろく意い見けんをいた

きたい。現時点げんじてんでこちらは【資料4-1】の黄色しりょうマーカー箇所きいろ、そして定義かしょとして出でしている

がいこくじんしゅみん ひょうげん ぎょうせいご あつか かんが  
外国人市民という表現を行政用語として扱ってあげればと考えている。

かいちょう  
会長

かんたん き げんじてん ひょうき  
簡単に決められることでもないため現時点ではこのままの表記として、ほかになにかよい

ひょうげん けんとう おも  
表現があれば検討してはどうかと思う。

いいん  
委員

がいこく ひょうき がいこく おも  
外国にルーツを、という表記のところだが、外国“にも”、とすることはとてもよいと思う。“に  
も”、とすることでこちら側の受けとめ方が違って来る。印象が良い。

かいちょう  
会長

へんこう けんとう ねが がいこくじんしゅみん ひょうき あん  
そちらについては変更の検討をお願いする。外国人市民という表記についてはよい案があれば

ていあん おも  
提案いただければと思う。

しりょう  
【資料4-1】の2ページの該当部分について事務局より説明

いけんようし  
【意見要旨】

いいん  
委員

たよう にな て もんごん のこ かんが ちいきしゃかい こうせいじん とも い  
多様な担い手という文言は残すべきではないかと考える。地域社会の構成員として共に生き  
ていくということが基本的な定義としてあるので、大小様々な役割があるかと思うが、担い手  
として生活していくことを考えると一つそのような表現があってもよいかと思う。はじめに

しりょう よ さい かん こんかい しりょう すこ うす  
資料を読んだ際に、いいなと感じていたが今回の資料でなくなってしまったことにより、少し薄

くなってしまったように感じている。

ふくかいちょう  
副会長

たよう ぶんや にな て い み  
多様な、というのはどの分野においても担い手になっているという意味なのか。

じむきょく  
事務局

とくてい ぶんや げんじょう ちいきしゃかい さんかく かつやく  
特定の分野というイメージではなく、現状としてなかなか地域社会に参画し活躍しづらい

じょうきょく たと ぼうさい ぶんや がいこくじん おも  
状況にあるので、例えば、防災という分野では、外国人であるからこそできることがあると思

うので、さまざま ぶんや さんかく かつやく たぶん かきょうせいしゃかい いと  
うので、様々な分野に参画して活躍することができる多文化共生社会を意図している。

いいん  
委員

わたし も けいざいてき しごと  
私が持つイメージとして、経済的な仕事をしているということはもちろんだが、そうでなく

となりきんじょ あいさつ けいせい  
でも隣近所で挨拶をするだけでもコミュニティが形成されることから、それはコミュニティ

けいせい にな て おも たようほんとう はばひろ にんげん せいかつ すべ  
形成の担い手ではないのかなと思う。多様というのは本当に幅広い人間の生活の全てではないか

かん  
と感じている。

じむきょく  
事務局

なか さべつてき せつめい もう あ めざ すがた  
アンケートの中でもまだ差別的なことがあったりと、説明でも申し上げたが目指す姿として、

にちじょうせいかつ いとな めざ かんが ちいきしゃかい  
日常生活を営むというところを、まずは目指していきたくないと考えている。そして地域社会へ

さんかく かつやく ひょうき い み こ  
の参画、活躍する、ではなく、“できる”と表記したのはそういった意味も込めている。そしてこ

とりくみ ひろ すす さい あらた にな て かんが かつ しめ おも  
の取組が広がり進んでいった際に改めて担い手としての考え方を示していければと思う。

いいん  
委員

さきほど がいこくじん とっか たよう  
そういうことであれば、先程の外国人ならではのできることに特化するのがこの多様なという

ひょうげん と おも にな て ちいき いちいん ぶんしょう  
表現にも取られるのではないかと思う。担い手として、地域の一人として、ということを書  
ひょうげん ほう びやうどう つた おも だんじょきょうどうさんかく おな おも  
として表現した方が平等であることが伝わるかと思う。男女共同参画でも同じだと思うが、  
じょせい いけん ほ じち かいやくいん はなし  
女性ならではの意見が欲しいから自治会役員にという話がちぐはぐになってしまっているのと  
おな がいこくじん しみん たよう か ぎやく そがい  
同じで、外国人であり市民であるのに、“多様な”と書くことで逆に疎外してしまうことになら  
ないかという点から、担い手という表記は必要だと感じる。そのかわり、多様なという表記は不要  
である。

じむきょく  
事務局

きほんりねん すこ へんこう がいこくじんしみん お しみん かた  
基本理念のところも少し変更しており、外国人市民であることは置いておいて市民の方がとい  
ひょうげん たぶんかきょうせい いみ かんが かた いけん  
う表現をしつつ、多文化共生という意味ではそこにフューチャーする考え方もある。意見と  
で だれ ちいき いちいん ささ あ かんが かた なか きほんりねん かか  
して出たように誰もが地域の一人として支え合うという考え方もある中で、基本理念にも関わ  
るところは併せて説明させていただく。

しりょう  
【資料4-1】の12ページの該当部分について事務局より説明

いけんようし  
【意見要旨】

かいちょう  
会長

しりょう はいけん さい ていぎ お もんごん がいこくじんしみん ほう  
はじめに資料を拝見した際に、定義として置いているなら文言はそのまま外国人市民とした方  
がわかりやすいのではないかと思った。

いいん  
委員

がいこくじんしみん もんごん じしん こと さべつ かん かんじ  
外国人市民という文言は自身の事であるので、とてもわかりやすい。差別とは感じず、漢字も  
かんたん おも  
簡単でよいと思う。

かいちょう  
会長

にな て たよう ひょうき にな て かん ひつよう いけん  
担い手、多様な、という表記についてはどうか。担い手に関しては必要という意見がいくつか  
あったので入れる方向として、多様なというところについてご意見は。社会の担い手というのは  
どうか。ちいきしゃかい さんかく にな て かつやく  
地域社会に参画し、担い手として活躍できるなど。

ふくかいちょう  
副会長

たよう しゃかい ほう にな て かいしゃく わ おも  
多様な、よりは社会の方がよい。多様というのは解釈が分かれると思う。

かいちょう  
会長

しゃかい にな て へんこう かのう  
社会の担い手に変更することは可能か。

じむきょく  
事務局

にな て ことば とら かつ さまざま おも ぎょうせい さんかく い み  
担い手という言葉の捉え方は様々だと思うが、行政としては、参画という意味だけではなく、  
やくわり は ひと い み あ おお とら  
役割を果たす人というふうに意味合いを大きく捉えてしまうことがある。そうしたことから、一  
そくと がいこくじんしみん にな て かつやく いけん で こんかい  
足飛びに外国人市民が担い手として活躍することができるのかという意見も出てきている。今回  
かいぎ いけん あ いちどけんとう おも  
の会議でいただいた意見も合わせて、もう一度検討したいと思う。

いいん  
委員

すがた めざ かな かな おも がいこくじん にな  
どの姿を目指すかによってどこまで書くのかも変わると思うが、外国人ではなくても担うべ  
きものがあるというのが大切ではないかと思う。基本理念の二行目にある、ちいき いちいん ささ  
え合うというところも、ほかの場所でも活躍という言葉を使っているのなら、めざ すがた かつやく  
え合うというところも、ほかの場所で活躍という言葉を使っているのなら、目指す姿にまで活躍

という言葉を入れなくてもよいのではないかと思う。まずは安心して日常生活が営めることが保障されることが大切というのはわかるが、いつかこうなりたいという夢や目標は、支え合うという表現よりも活躍できる人が増えるところを目指したいという気持ちもある。社会的弱者であることが意識として表れているのが、この支え合うという表現であるのかなと思ったが、そうではなく、国籍やどんなルーツがあるかは関係なく、市民として対等に支え合うよりも活躍する者同士、といったところで共生に繋がればという思いがある。支え合うという言葉の中には、どうしても外国人市民の方が支えられることが多そうに感じるが、人によっては逆のパターンもあり、平等ということを考えるなら活躍する、あくまでも目指すのは、みんなが活躍できるというふうに置きたいと思う。そうすることで、担うという表現とも合うのではないかと考える。

かいちょう  
会長

目指す姿としてはそういうものであると思う。皆が参加して活躍できる、外国人も日本人も関係なく、外国人市民という定義も必要ない社会が本当は理想であるとは思いますが、現状としてそこに到達していない今どこまで押し進められるかだと思う。

ふくかいちょう  
副会長

本当の意味での共存、共生できる社会の実現が目標なら、外国人市民が安心して日常生活を営み、という文章も少し違うように感じる。外国人を救済するのか、日本人を救済するのかどちらかを選ぶような気がしている。

かいちょう  
会長

ただ、今はここから始めなければならないというところで、様々な偏見があったり、アンケート結果を見てもヘイトスピーチが出ていたり、目指しているものに対してゼロかマイナスのところからのスタートとなるので必要なことであると思う。いずれこのようなものも必要なくなればよいが。

いいん  
委員

一つ気になるのは、基本方針の背景や趣旨の部分で、とりあえず今はここまでということではなく、どういったことがしたいのか、最終的な目標とする姿は書いてもよいのではないかな。なので、担い手という言葉も違う表現があればよいと思うし、担い手という言葉になにか大きな役割を押し付けるような意味は込められていないように思う。

かいちょう  
会長

プラスなのかマイナスなのか感じるころは様々だが、マイナスに捉えられたり、間違った解釈をされる可能性があるなら外した方がよいかもしれない。

じむきょく  
事務局

【資料4-1】の12ページの基本理念の中にある地域のところで、支え合いながらという表現をしているが、【資料4】では、外国人市民が地域社会の一員として活躍し支え合いながら暮らしています、というふうに記載していたが、外国人市民だけではなく日本人市民もお互いに助け合いながら暮らす地域ということを意図しており、【資料4-1】では日本人市民と、という部分を追記しているのでご意見があればお伺いしたい。

いいん  
委員

がいこくじんしみる にほんじんしみる かいはい すこ かん がいこくじんしみる にほんじんしみる  
外国人市民と日本人市民、2回入るのは少しくどいように感じる。外国人市民と日本人市民が

こうりゅう たが りかい ふか ささ あ く みじか  
交流し、お互いに理解を深め支え合いながら暮らしています、と短くするのはどうか。

かいちょう  
会長

ないよう か みじか ほう わたし おも へんこう ねが  
内容としては変わらないので短くした方がすっきりして私もよいかと思う。変更でお願いしたい。

じむきょく  
事務局

たんばしたぶんかきょうせいしんきほんほうしんあん じっし  
丹波市多文化共生推進基本方針案について、5ページのパブリックコメントの実施であるが、  
しりょう 4-1 では「さくてい きほんほうしんあん策定した基本方針案について、ひろ しみん いけん ほんえい きほんほうしん広く市民の意見を反映した基本方針となるよう  
パブリックコメントを実施しました」と書き換えている。意見があればお伺いしたい。

いいん  
委員

いけん  
意見ではないが、たんばしたぶんかきょうせいしんきほんほうしんあん丹波市多文化共生推進基本方針案の資料の漢字のふりがなについて誤植が

おおいのがき気になった。

じむきょく  
事務局

14ページのとりくみほうしん取組方針についてもいけんなにか意見があればお伺いしたい。

いいん  
委員

かくこうもく ぎょうせい しなひ ぐたいてき しえん とりくみ こんごれつき  
各項目について、行政だけではなく市内での具体的な支援や取組なども今後列記されるのか。

じむきょく  
事務局

げんざいかんが すいしんしゅたい ぎょうせい じぎょうしょ みんかんだんたい ぶぶん  
現在 考 えているのは推進主体というところで、行政と事業所、民間団体などの部分につい  
ても かんが ひょうき おも ぜんかい ぶんや ことば かん  
考 えながら表記をしたいと思います。前回のワークショップでいただいた分野や言葉に関する  
こと、またくに けん さんこう かくこうもく あ こんご ぐたい とりくみ けんどう  
こと、また国や県も参考にしつつ各項目を挙げており、今後、具体の取組を検討していきたい  
とおも  
と思 います。

いいん  
委員

たんぼし す がいこくじん かた だんたい さんざい はあく  
丹波市に住まれている外国人の方のコミュニティや団体は存在しているのか。把握されてい  
るのであればおし ほ  
るのであれば教えて欲しい。

じむきょく  
事務局

ネットワークがさんざい 存在するという はなし き はあく  
ネットワークが存在するという話は聞くが、把握していない。

かいちょう  
会長

こくさいこうりゅうきょうかい はあく  
国際交流協会ではなにか把握されているか。

ふくかいちょう  
副会長

コミュニティがあるということはわかるが、どこにどのくに  
コミュニティがあるかまではわ  
からない。

## 6 その他

じむきょく じかいについでい せつめい  
事務局より次回日程について説明